

令和4年度 第2回総合教育会議議事概要

令和5年1月25日（水）に令和4年度 第2回総合教育会議が開催されました。

第2回総合教育会議の議事概要は別添のとおりです。

令和4年度 第2回福知山市総合教育会議 議事概要

日 時 令和5年1月25日(水)

午前10時30分～

場 所 市民交流プラザふくちやま 4-1

■出席者(敬称略)

教育長 廣田 康男

教育委員 塩見 佳扶子、和田 大顕、加藤 由美、織田 信夫

市長 大橋 一夫

教育委員会事務局理事、教育総務課長、学校教育課長、学校教育課総括指導主事、生涯学習課長、生涯学習課長補佐、中央公民館担当次長、図書館長、市長公室長、経営戦略課長

■開会 大橋市長挨拶

廣田教育長、教育委員の皆様には日頃から本市教育の充実・発展に多大なご尽力をいただき、厚くお礼申し上げます。

現在、依然として収束が見通せないコロナ禍や、ロシアによるウクライナ侵略など、世界情勢の混乱による原油高や物価高騰の影響が長引く中、国内外の社会経済情勢の動向は、極めて不安定かつ不透明である。また、地球温暖化の影響による自然環境の変化や、少子高齢化・人口減少など、私たちが生活する地域社会における課題も、今後ますます多様化・複雑化の一途を辿ることが予想される。このような状況下において、地域課題に向き合い、解決を図るためには、市民の皆様や民間事業者、各種団体と行政が一体となって、ともに考え、ともに連携して取り組むことで、はじめて地域課題を解決することができるということを、あらためて強く認識しなければならない。

本日の会議においては、「コミュニティ・スクールの推進」について、協議をお願いしたい。目まぐるしく変わる社会環境の中で、学校と地域が共有した目標に向かって、ともに活動し、地域が抱える課題や多様化するニーズに対応するとともに、未来を担う子ども達が、地域社会との様々な関わりを通じて、これからの時代に必要な力や地域への愛着を育むことが期待される取組である「コミュニティ・スクール」について、現在の取組状況などの報告を交えながら意見交換をさせていただく。

この会議を通して本市教育の振興が図られることを期待し、開会のご挨拶とする。

■協議事項

意見交換

テーマ「コミュニティ・スクールの推進(地域と共にある学校づくり)について」

市長

本日の会議は、地域と共にある学校づくりに向けて、学校教育や地域活動の拠点である「学校」の運営に焦点を当て、「学校運営協議会」の設置、いわゆる「コミュニティ・スクール」をテーマに教育委員の皆様と意見交換をしていきたい。

学校運営協議会は、平成16年9月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、教育委員会の判断で設置(コミュニティ・スクールの導入)が可能となった。

また、平成29年4月の一部改正でコミュニティ・スクールの導入は教育委員会の努力義

務となったところである。

一方、本市の総合的な市政運営の指針として、令和4年3月に策定した「まちづくり構想 福知山」にも、「地域総ぐるみの教育の場づくりの推進」を施策として掲げ、地域の実情に応じた「学校運営協議会」の設置を進めていくこととしている。

本市では現在、令和3年度の川口と大江ブロック、令和4年度の六人部、夜久野、三和ブロックと、計5ブロックで学校運営協議会を設置し、令和5年度で残り全てのブロックに、地域の実情にあわせて学校運営協議会の設置を予定しており、詳細はこの後、担当課より説明を行わせていただく。

私は、コミュニティ・スクールの取組の質的向上と教育委員会の伴走支援体制を構築することで、コミュニティ・スクールが、子どもたちや保護者、教職員、地域の方々それぞれにとって魅力あるものにしていくことが重要と考えている。

例えば、子ども達には、地域の方々と触れ合う機会が増え、地域の歴史や文化についての学びや体験活動が充実することで、今まで以上に、地域との結びつきが強まり、地域への愛着が醸成されるものと期待している。

保護者には、地域の中で子どもたちが育てられているという安心感があり、保護者同士や地域の方々との人間関係が構築され、地域や学校に対する理解が深まるものと考えている。

教職員の皆様には、学校運営や地域人材を活用した教育活動が充実し、子どもたちと向き合う時間が確保できるようになるのではと思っている。

地域の方々にも、コミュニティ・スクールの取組を通して自らの経験を活かし、生きがいや自己有用感につながる。

このように、学校が社会的つながり、地域の拠り所となり、地域ネットワークが形成されることで、地域の活力、防災力や教育力の向上が図られ、しいては地域課題の解決に繋がるものと考えている。

この後、意見交換に移る前に、本市の状況や導入ブロックでの効果や課題など、担当部署の報告を受けたいと思っており、コミュニティ・スクールに対する知識・理解を深め、今後の地域と共にある学校づくりに繋がる学びの場となればと考えている。

学校教育課より、コミュニティ・スクールの取組について資料に沿って説明

市長

担当課から説明を受けたが、これからのコミュニティ・スクールが果たす役割は重要であると考えている。これからの地域ネットワーク拠点の一つとして期待されるコミュニティ・スクールのあり方について、委員のみなさまからも御意見をいただければと思う。

塩見委員

私がかつて現場にいたときは、学社連携あるいは学社融合が叫ばれた。しかしながら、両者の間にはさまざまな課題があり、残念ながら両者の垣根はなかなか低くならなかった。今、地域社会の一員として学校を見ると、おらが村・まちの学校のために、できる限りの力を尽くそうと思っている地域の方々が多いことを痛感している。その表れとして、さきほどもあった、登下校の見守り、読み聞かせ、昔遊びの講師、地域未来塾などの学習支援などなど、折に触れて子どものためにさまざまな関わり方で活動していただいている。学校運営協議会が設置され、コミュニティ・スクールとなると、各活動のそれぞれの点と点が線でつながり、学校を中心に地域の実情に応じた特色ある面になっていくと思う。市内各地に特色ある面が創出されると、「教育のまち 福知山」のシビックプライドへも繋がるのではと期待している。

そこで、この制度が持続的に将来へ繋がっていくためにとりわけ2つのことが大事ではないかと思っている。

一つは、未来を担う子どもたちの成長を支える仕組みづくりである。より多くの幅広い層の地域住民や、団体の方が参画し、目標を共有し、任意性の高いゆるやかなネットワークを形成することである。地域社会は未来を担う子どもたちを健やかに育むことに一生懸命である。しかし、制度推進にはマンパワーが必要である。現状ではマンパワーは高齢者に期待せざるを得ないところが大きい。地域では同じ方が様々な役割を担っているのも事実。福知山市には、まちづくり協議会や心の教育実践活動推進委員会、青少年問題協議会等々、子どもたちの健全育成に関わる組織や団体が諸々ある。できるだけそれらと連携し、子どもたちの健全育成に関わることや、地域の課題について熟議する場としてのプラットフォームが必要だと思う。そうすれば効果的・具体的な連携・協働ができると思う。

また、いかにこのプラットフォームが効果的な場になるかは、この制度の契機に関わるかと思う。そこでもう一つは、効果的に機能するためのコーディネーターの配置やその強化が重要と考える。地域住民や学校、保護者等との連携調整の役割を担う。活動内容や活動する人々を縦糸と横糸としてつむぎ、特色ある地域を創出することに期待したいと思っている。

市長

人材というと、地域には色々な役を掛け持ちされている方が多い。それにコミュニティ・スクールも、となると、掛け持ちされている組織と緩やかなネットワークをつくり上手に連携していくことが大事である。コーディネーターの役割も非常に大事だが、人材が問題となる。

和田委員

事務局や塩見委員の発言や説明を聞き、異質な発言になるかもしれないが、コミュニティ・スクールとは学校の課題解決だけでなく、地域住民にとっても安心安全な学校づくりを行っていくための協議・実践する機関であると思っている。市長がおっしゃったように、この組織は平成16年に制度化され、平成29年の地教行法の改正により学校運営協議会の設置が努力義務化され、開かれた学校から一歩踏み出した。この一歩踏み出したが大切だと私は思っている、これまでも「開かれた学校」とは言われてきたが、そこから一歩踏み出して地域のみなさんと目標やビジョンを共有しつつ、「地域とともにある学校」への転換と、「子どもも大人も学び育ちあう教育体制」の構築、学校を核とした地域作り、この3点がコミュニティ・スクールの主眼であると思っている。

地域に根ざした学校は生涯学習、子育て支援、防災、景観、環境など、たくさんの地域課題に対して使える施設、空間、使われていない時間をもっているのも学校である。学校づくりは、住民のまちづくりの意識を育てる重要な核になりうると思う。しかしながら地域の方々、保護者、教員もコミュニティ・スクールについて理解が十分ではないのも事実である。コミュニティ・スクール設置校からは、地域へ積極的に情報提供できるようになったとか、地域が学校に協力的になったとか、学校が活性化してきたという、地域が学校に貢献するという方向性の意見を多く聞くが、学校が地域に貢献するという、学校の地域貢献の部分を議論されることは極めて少ない状態である。避難所としての学校開放は大切な貢献だが、人生100年時代にすべての人が、物が、組織が連携・協働して問題解決にあたらなければならない、複雑化する社会の中で、人生100年時代を見通した「まちづくり構想 福知山」でめざす本市のまちづくりに、学校は何ができるだろう。また、心豊かで生きがいを持った生活を願う地域の方々に、学校はどう関わっていけるのかを考えなければいけない時に来ているのではないかと思う。

しかし、残念ながら、複雑・多岐にわたる学校業務の中で、校長や教員にまちづくりや地域貢献についての議題やテーマの設定を求めるのは極めて困難である。地域貢献型コミュニティ・スクールの大切なことは、市長からもあったように学校と地域を結ぶ共通テーマをもつこと、また、テーマに対して理解者や専門家が委員に加わること、地域住民や児童生徒、保護者、学校と一緒に活動できることなどでこれらを達成することについては、難しい話ではあるが、学校の視点と行政のまちづくりの視点をもったコーディネーターや指示する職員がほしいと思う。これからのコミュニティ・スクールは、行政から学校とともにまちづくりについて語る専門家・協力者の支援が不可欠になると思う。地域の方々と学校が連携したさまざまな活動を通して、子どもの自己肯定感やふるさと福知山への愛着が生まれることは間違いないと確信している。学校の教育環境・内容を守ったうえで、この総合教育会議がもたれるように、まちづくりの会議にも学校を含めてほしい。これが学校・子どもを育てることに繋がるのではないかと考えている。

市長

教育環境を守った上で、学校運営に関して地域が学校へどうコミットしていくか、学校が地域にどうコミットしていくかという問題だと思う。学校にもまちづくりの問題について考えていただくことは大事なことである。

全国的にみると、コミュニティ・スクールを設置したが、形式的で中身が伴わないことも散見されると聞いており、質的な向上はとても大事な話だと思う。

コミュニティ・スクールをつくった目的は、学校運営に地域の方も参加してもらい、基本的なところはコミュニティ・スクールで決めましょうということである。それを教育現場がどう受け止めて、どういうふうに地域の方に基本的なところを考えていただくかというのが質の向上には大事な視点だと思う。

加藤委員

学校運営協議会というものの自体が、これまでの学校評議員制度からの単なる移行ではないことの認識が、学校や地域にも十分に周知されるとともに、準備も必要であると思っている。

学校運営協議会制度というものの自体、背景として、少子化、核家族化、学校統合などで、子ども取り巻く人の数が少なくなって、子どもたちの社会性が育つ場とか環境が少なくなっているのは事実だと思っている。

さらに、子どもが少ないので、子どもたちの特性もさらに見えるようになり、多様な関わりが必要になってきているので、学校のみならず、地域ぐるみでいろんな大人が関わっていきましょう、と。そしてまた、地域が関わることで地域の活性化にもつながるのではないかとというのがコミュニティ・スクールの趣旨であると捉えている。

しかしながら、地域ぐるみとか、社会総がかりでの子育てというのは、漠然とした曖昧さがあるので、何をどういうふうに、というのは難しい。学校運営協議会を通して、子育ての輪がじわじわ広がり、地域それぞれの組織や立場の方々に子育ての役割とか、関わり方が見えてくることを期待したい。

学校運営協議会が本来の意義を発揮するためには、学校課題だけでなく、地域課題へつなぐ、地域コーディネーターのりしろの役割が必要だと思っている。さらに、選出して任せただけではなくて、研修制度のある人材育成システムのようなものが市全体でできないかと思っている。

前回会議で、公民館活動の役割として、地域住民センター、という話もでていたが、その中でも地域コーディネーターについての意見が出されていたかと思う。地域と学校とつな

ぐ役割はどうしても必要であれば、コーディネーター自身も何をしたいかわからないという悩みも出てくると思う。何をするのか、研修制度を含めた人材育成制度があればいいと強く思う。

「まちづくり構想 福知山」の中にも市民の参画による問題発見・解決のプロセスを重視した構想づくりと提起があるように、「市民参画」は本市行政のキーワードであると捉えている。なので、まちづくり構想の一環として、教育委員会のみならず、地域づくり、福祉等行政組織と連携協働した人材育成のシステムづくりが一番肝ではないかと思う。一気にできないが、やがては年数を重ねながら、コミュニティ・スクールもいつかは本来の姿のように、コーディネーターなしでもできるようになるのが望ましいと思う。そういった将来像を描き、意義を認識しながら学校も地域も徐々に進めていくことが大事だと思う。

市長

コミュニティ・スクールで熟議することは大事である。その中で、「社会総がかり」「地域総がかり」という言葉が具体化し、何か見えてくるのではないかと思う。

先ほどから人材の話が出ているが、まちづくりでも、とがった人がいれば進む、という話がある。しかし、そういう人を探すのは難しく、コーディネーターの養成も課題である。

地域住民センターでも、自分たちの地域のために取組を始める際、コーディネートできる人がいないという問題を抱えており、人材育成・発掘はキーワードになってくる。

地域との関係をどうしていくかも含めて、皆で熟議し具体化する、そして学校運営へ反映していくシステムづくりが大事だと思う。

織田委員

みなさんが発言されるなかで、同じような発言になるかもしれないが、今回のテーマでもある「コミュニティ・スクール」については、昨年9月に開催された、文科省主催の教育委員の研究協議会があり、ある分科会で「地域と学校の連携協働について」というテーマで座長を担った。そこに参加されていた委員が、海津市、富士宮市、香芝市、久慈市といった、福知山と人口規模が似かよった構成の市町の方々と意見交換をさせていただいた。その各地域の教育委員会担当者の学校運営協議会を設置するにあたっての悩みの種は、地域人材の発掘と確保、またどのようにして協力してもらうかというのが課題であると、同じような悩みを抱えているのだと思った。ただそのなかで学校主体という形になるので、「教育委員会、学校、どうぞ勝手に」というかんじではなく、地域総ぐるみで対応していかないと継続性は保たれないのではと思った。長く協力していただける人材の確保については、市をあげて人材探しについて対応していかなければならない。人材が確保できたあとは、今回各ブロックで設置されたところもあるわけだが、そのあとの活動が大事ではないかなと思われる。各地域の教育委員会の話を聞く中では、趣向を凝らしながら取り組まれていることを私なりに実感した。当然のことながら、その地域のなかの学校という意味では、地域から学校支援をするという観点では先ほどから出ているように、登下校見守り、学校環境整備、放課後支援、さらには家庭教育にも踏み込んだ支援（地域防災）、そういったいろんな視点での取組も必要になってくる。各市町が言っていたのが、地域の文化や祭りである。福知山では地域性を生かした形で、それぞれのブロックのなかでもそれぞれの文化・祭りはあると思うが、そういった内容をいかに継承していくか、その取組も重要であると理解している。そうした取組が実施されることで、さらに地域と学校との連携・協働というものが、今後そういった人たちの応援によって発展していくのか、フェードアウトしていくのかということになってくると思う。旗振り役をしてくれる方が限定されているという話もあったので、いかに人材発掘に市をあげて取り組めるのかどうかということも、今後機会があれば意見交換し

たい。

市長

コミュニティ・スクールだけではなく、人材をどう発掘し、それを継続性のあるものにしていくのかはどの組織でも難しい話である。結局はまちづくりをどうするのか、地域づくりをどうするのかという問題に帰着する。

例えば、前回のテーマ「地域公民館」でも「住民センターとどう連携していくのか」が、ひとつキーワードになる。しかし、その問題を考えていかないと本当の意味でのまちづくり、地域づくりはできない。行政だけでまちづくりはできない、地域の方々も一緒にやろうと思ってもらわないとできない。これはコミュニティ・スクールでも悩ましい問題である。

地域の特性や、地域で傳承されている文化を子どもへ伝えていくことも大事。先ほど「とんがった人」と申し上げたが、地域の文化傳承は、地域の人ができることで、とんがった人、地域の人など、人材の視点は幅広く考えたほうがよいと思う。

和田委員

市役所で地区担当職員が自治会ごとに2人ずついると思う。職員は「まちづくり構想 福知山」についても承知されているかと思うが、職員をコミュニティ・スクールの中へ派遣していただき、まちづくり構想について話してもらえれば、それを材料に学校職員も参加者も話し合いの輪や話題が広がるのでは。そういったことを先日思った。

市長

「まちづくり構想 福知山」全体の話というと広くなるが、施策ごとの話に繋げると理解していただきやすい。例えば「地域未来塾」での成果指標をお伝えし、地域のみなさんに協力していただけることは何か、という話になるかもしれない。担当課としてはどうか。

経営戦略課長

構想策定時に、地域別懇談会を開催し、中学校ブロックごとに説明会を行った。先ほど地区担当の話もあったが、策定当初に職員向けにも研修を行い、自分ごととして受け止めるように話をしている。また、生涯学習の出前講座にもメニューとして含めているので、可能な限り対応したい。

市長

コミュニティ・スクールの中で話を聞いた上で協議しよう、となれば、行かせていただくことはできる。

廣田教育長

コミュニティ・スクールは、すでにスタートしている学校とこれからの学校がある。すでにスタートしている学校では今後の展開の中で、そういったテーマにより新たな発展につながるかもしれない。

織田委員

形式論に悩んでしまってもいけないと思うが、先ほどのある市町の発言で私が気になっていたのが、大学教授であるとか、特に福知山は福知山公立大学で地域経済の学部がある中で、教授や学生からのコメントをいただける場を確保することはできないのかな、と。ただ地域ごとにブロックで分かれているというのがあるので、関与の仕方は難しいと思うが、福

知山市出身の学生はなかなかいないと思うので、他地域から来られた教授・学生にコミュニティ・スクールの運営の仕方について意見を聞いてみるのもどうかと思う。

市長

先ほどの出前講座ではないが、大学から呼んでいただいて話をすることは可能である。ある程度テーマの設定は必要だが、大学の先生なのか学生なのか、出身ではない学生には福知山のまちはどう映っているのか、話をすることはできる。福知山市外の方からの意見は大事な視点である。

織田委員

切り口になると思う。

市長

本市では当たり前であることも、外からすると当たり前ではなくて、違ったりする。うちはこんなですよ、という意見が学生からあるかもしれない。

織田委員

そういう形で刺激にもなればなと思う。

塩見委員

地方新聞からの情報だが、公立大の学生が福知山の活性化のために、いろいろ活動してくれていると知った。記事を見る限り、福知山の将来は明るいな、力強いな、と感じる。

市長

学生は地域実践教育でもあり、学生は学生の視点からいろんな取組をやってもらっている。うまく現場感覚とマッチしていないこともあるかもしれないが、やってみるということが大事な場合もある。

加藤委員

子どもへの関わりというのは、地域のおじさん、おばさん、お兄さん、お姉さん、いろんな人の存在が子育てには大事。そういうスタンスで、地域未来塾では中学校校区で地域の方々に関わっていただいていると思う。学びや学習重視以上に、いろんな人が地域にいて、学生も含め声をかけ、関わっていただける場が増えたらなあと思う。小学生は放課後児童クラブなどで、見守りもあるが。子どもを育てるのに1つの村がいるとよく言われるが、隣のおじさん、おばさんの存在は子どもにとって大事だと思う。

市長

地域の絆が薄れてきたと言われて久しいが、地域が育んできたものと学校運営を、どう意識してマッチングさせていくのかはコミュニティ・スクールの問題だと思う。地域が子どもを育ててきた過去からの歴史があり、これからも大事。ただ薄れているのも事実である。

そのほか意見などはなかったか。(→なし)

それでは、本日本日予定していた総合教育会議の議事については以上となる。引き続き理事者同士の協議や市長部局と教育委員会事務局相互が連携を密にし、対応していきたい。

■閉会 廣田教育長挨拶

本日は大雪で開催も心配したが、今日、活発に意見をいただき、会議を開催できてよかった。

学校運営協議会は早いところで現在開設2年目である。学校運営協議会が地域とともにある学校づくりを進める仕組みとして本格的に機能するには、まだまだこれからというのが現状である。器は整いつつあるので、中身はこれから、という状況であるとも思う。中身は地域性によって変わっていくものだと思う。これまでの地域と園・学校のつながりにはそれぞれに特色があり、それを踏まえていく必要がある。

国の動向としても、来年度より新たに5年間の第4期教育振興基本計画により、教育行政が進められていくこととなっているが、その中では、今後の教育政策に関する基本方針について5点示されている。その3点目として、「地域や家庭とともに学び、支え合う社会の実現に向けた教育の推進」が掲げられている。そこにコミュニティ・スクールも位置づけられ、学校・家庭・地域の連携強化が明記されているところである。こういったところからも、今後どう中身を充実させるかは大事だと感じている。

人材の育成・確保というところでいうと、なかなか見つからないのが現状あると思うが、学校運営協議会が熟議を通じて活発になっていくと、委員の中から主体的に学校や地域に関わろうとする流れができたり、様々な活動につながったりして、やらされているのではなく、これまでの委員のキャリアを生かし、生きがいややりがいを感じて活動してもらえる方が出てくるのを期待したい。その方が地域の核になるのではないかと思う。人材育成・発掘の場にも学校運営協議会がなるのではと思う。「子どものために」というキーワードがあると、いろんな方が協力してくださる。学校運営そして地域課題に目を向けてくることが人材発掘につながるのではと本日の意見を聞いて感じた。コミュニティ・スクールの大きなゴールは、未来を担う子どもたちの成長を地域社会全体で支える社会の実現である。

まだまだスタート段階なので、市長をはじめ、市長部局と教育委員会と関係者の理解が本日一步進んだことが大切だと考える。これからも連携しながら、スモールステップを刻むことが大事だと思う。学校運営協議会が、学校が地域に見える、そして地域に学校が見える、この橋渡しの役割を果たしていくことが重要である。

今後もしよろしくお願ひしたい。

以上